

## 炎症性腸疾患の腸管外合併症治療指針の改訂

研究協力者：松浦 稔，杏林大学医学部消化器内科学 准教授

研究要旨：炎症性腸疾患(IBD)の腸管外合併症は IBD 患者の QOL や長期予後にも影響する。しかし、その診断や治療は IBD 専門家においても時に難しく、一般診療医には腸管外合併症の認識自体が未だ不十分である。本プロジェクトでは国内外から収集した最新のエビデンスや IBD 診療の現状に基づき、本邦で IBD 腸管外合併症の診断および治療を行う際に標準的に推奨されるものとして、IBD の腸管外合併症治療指針を作成し、その内容を見直し定期的に改訂を行った。

### 共同研究者

中村志郎 (大阪医科薬科大学第二内科)、猿田雅之 (東京慈恵会医科大学内科学講座 消化器・肝臓内科)、小林拓 (北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター)、新井勝大 (国立成育医療研究センター消化器科/小児炎症性腸疾患センター)、岸本暢将 (杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科)、平井郁仁 (福岡大学病院消化器内科学講座)、松岡克善 (東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科)、樋口哲也 (東邦大学医療センター佐倉病院皮膚科)、加藤真吾 (埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科)、渡辺憲治 (兵庫医科大学医学部消化器内科学講座)、内野基 (兵庫医科大学消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科)、長沼誠 (関西医科大学内科学第三講座)、新崎信一郎 (大阪大学大学院医学研究科消化器内科)、虻川大樹 (宮城県立こども病院 総合診療科・消化器科)、高木智久 (京都府立医科大学医学研究科 消化器内科学教室)、加藤順 (千葉大学大学院医学研究院消化器内科学)、藤井俊光 (東京医科歯科大学消化器内科)

診療科との連携した診療体制の構築や腸管外合併症に対する早期マネジメントを推進することを目的に、IBD の腸管外合併症治療指針を新たに作成した。しかし、IBD の腸管外合併症に関するエビデンスは未だ少なく、診断や治療についても確立されていないことも多い。本プロジェクトの目的は、国内外からの IBD 腸管外合併症に関する最新情報を随時収集し、本邦の IBD 診療の現状を踏まえ、本治療指針をより充実したものにするために、その内容を定期的に見直し、必要に応じて改訂を行うことである。

### B. 研究方法

国内外からの IBD 腸管外合併症に関する文献的エビデンスや学術団体から発表されたガイドラインや提言などを随時収集し、本邦における IBD 腸管外合併症の診断ならびに治療に際して標準的に推奨される指針となるべく、その内容を定期的に見直し改訂を行った。また本治療指針の理解を促すことを目的に、腸管合併症の症例集 (アトラス) を新たに作成した。

### A. 研究目的

本研究班では、IBD 診療に関わる医療者全般に IBD の腸管外合併症について広く啓蒙し、関連

### C. 研究結果

#### 1) IBD 腸管外合併症の選定

IBD 患者の予後への影響を鑑み、令和元年度

IBD 腸管外合併症治療指針で作成された 4 つの腸管外合併症（関節痛・関節炎、皮膚病変、血栓症、原発性硬化性胆管炎）に加え、「血管炎」「膵炎」の 2 つを追加した。

#### 2) 総論ならびに短文要約の追加

IBD 腸管外合併症の概念や定義、主な腸管外合併症と発生頻度、発症時期や疾患活動性との関連など、腸管外合併症に関する全般的な疫学データや臨床的特徴などを総論として追記した。また各項目のポイントを一目で理解できるように冒頭部に短文要約を追加した。

#### 3) 腸管外合併症各論の改訂

それぞれの腸管外合併症については、疫学、診断・鑑別のポイント、治療、関連する診療科との連携（コンサルトのタイミングなど）を中心に簡潔にまとめた。

#### 4) 画像集（アトラス）の作成

本治療指針で取り上げた腸管外合併症の典型的な画像写真を症例形式で提示し、診断や画像所見のポイントについて解説した。

### D. 考察

IBD の腸管外合併症の発生頻度は必ずしも高くなく、その診断や治療にもしばしば難渋する。そのため、主な IBD 腸管外合併症の診断や治療のポイントに加え、IBD 診療の携わる医療従事者に IBD の腸管外合併症について広く啓蒙することが重要となる。また IBD の腸管外合併症には発生頻度が低くても患者 QOL や生命予後にも大きく影響し得る合併症が存在するため、関連する診療科との連携した診療体制の構築が必須である。本プロジェクトではその基盤となるように国内外から文献的エビデンスや本邦の IBD 診療の現状に基づき、IBD 腸管外合併症の診断や治療のポイントを IBD 専門医のみならず一般診療医にも理解しやすくなるように記載方法を工夫・改善した。また従来の本治療指針では記述（テキスト）形式での解説が中心であり、画像集（アトラス）を新たに追加することで、本治療指針の理解を促し、

IBD 腸管外合併症を広く啓蒙することにも有用であると考えられた。

### E. 結論

本プロジェクトで作成する IBD の腸管外合併症治療指針が IBD 診療に関わる全ての医療者へ IBD 腸管外合併症を広く啓蒙し、その適切なマネージメントの指針となるように、今後も定期的な改訂が必要である。

### F. 健康危険情報

なし。

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

1. 松浦 稔. IBD 腸管外合併症の診断と治療. 臨床消化器内科 38;4: 435-440, 2023.03
2. Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T. Characteristics of adult patients newly diagnosed with Crohn's disease: interim analysis of the nation-wide inception cohort registry study of patients with Crohn's disease in Japan (iCREST-CD). J Gastroenterol. 2022;57:867-878.
3. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, Medina CL, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S. Clinical

characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis. Rheumatol Int. 2022;42:1751-1766.

4. 森久保 拓, 松浦 稔, 久松理一. PSCと炎症性腸疾患. 消化器・肝臓内科 11;6:739-745, 2022.06.
5. 松浦 稔. 炎症性腸疾患の治療 合併症の診断とマネジメント IBDにおける皮膚病変 日本臨床 80: 510-514, 2022
6. Nakase H, Uchino M, Shinzaki S, Matsuura M, Matsuoka K, Kobayashi T, Saruta M, Hirai F, Hata K, Hiraoka S, Esaki M, Sugimoto K, Fuji T, Watanabe K, Nakamura S, Inoue N, Itoh T, Naganuma M, Hisamatsu T, Watanabe M, Miwa H, Enomoto N, Shimosegawa T, Koike K. Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease 2020. J Gastroenterol. 2021;56:489-526.
7. 松浦 稔. 最新のガイドラインからみた IBD 領域における合併症対策 感染症を含めて IBD Research 15: 161-166, 2021

## 2. 学会発表

1. 藤麻武志, 松浦 稔, 森久保拓, 荻原良太, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 久松理一. 発症早期の炎症性腸疾患患者における腸管外合併症の臨床的特徴. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 大阪, 2022 年 11 月
2. 松浦 稔, 小野慶介, 岸本暢将, 久松理一. 炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2022 年 5 月
3. 松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 仲瀬裕志. 潰瘍性大腸炎とサイトメガロウイルス感染. 第 58 回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2021 年 7 月

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。